

Freedom



こうこうせい じんけんこうほう し だい ごう
高校生の人権広報誌 "Freedom"第3号

ねん にちはつこう
2010年 3月11日発行

へんしゅう
編集 "Freedom"編集スタッフ

な ら けんこうとうがつかう きょういくけんきゅうかい
発行 奈良県高等学校人権教育研究会

まいつき にち たし
毎月11日は「人権を確かめあう日」

こうこうせい じんけんこうほう し
高校生がつくる人権広報誌"Freedom" (フリーダム)
ぼ しゅうちゅう
スタッフ募集中!

ろう学校演劇部の舞台発表を見てきました

だい ごう えんげき かつどう しょうかい たか だ しょうぎょうこうこう
第2号でろう学校演劇部の活動を 紹介してくれた、高田商業高校のス
たッフが、今回は奈良県の高校演劇の発表会を取材。舞台を見た感想を寄
せてくれました。

ろう学校演劇部の「keep living 未来へ～」を鑑賞して

じゅうがつつ か み やけちようぶん か だい かい な ら けんこうとう えんげきはつびようかい ち
十月四日、三宅町文化ホールで第三十四回奈良県高等学校演劇発表会A地
くたいかい おこな 区大会が行われました。この大会で、以前に演劇部の練習風景などを取材させ
ていただいた、奈良県立ろう学校の皆さんの演劇「keep living 未
来へ～」が上演されました。このお話は、主人公の少女
じょうえん はなし しゅじんこう しょうじよ
が いじめを受け、追い詰められて逃げ惑った末に、少女の
う おつ に まど すえ
意識が死と生の狭間の異次元へと入り込んでしまう衝撃
いしき し せい はざま い じげん はい こ しょうげき
てき はじ かな
的な始まり方をします。死と生の狭間で、主人公は、亡く





な^{ちち}った^{おや}父^{てん}親^{せい}が^と転^{ちゆう}生^{じゆう}する^{たい}途^{かれ}中^{さい}の^{かい}状^{さい}態^{かい}で、^{かれ}彼^{さい}に^{かい}再^{かい}会^{かい}し^{かい}ま^{かい}す。そこ^かから^こ彼^{わら}ら^らの^な過^な去^みの^か話^かが^か笑^かい^かあ^かり、^な涙^なあ^かり^かで^か語^から^かれ^かて^かい^かき、^わ主^わ人^わ公^わの^わ状^わ態^わが^わだ^わん^わだ^わん^わと^わ分^わか^わつ^わて^わい^わき^わま^わす。父^い親^いか^いら^い生^いき^いる^い勇^い気^いを^いも^いら^いつ^いた^い主^い人^い公^いは、^わ父^わ親^わと^わの^わ別^われ^わの^わ後^わ、^あ元^あい^あた^あ場^あ所^あに^あ意^あ識^あが^あ戻^あり、^ま前^ま向^まき^まに^ま生^まき^まて^まい^まこ^まう^まと^ます^まる^ま姿^まで^ま劇^まは^ま終^まわ^まり^まま^ます。この^い劇^いでは、^い生^いき^いる^いと^いい^いう^いこ^いの^い意^い味^いや^い親^い子^いの^いつ^いな^いが^いり^いを^い考^いえ^いさ^いせ^いら^いれ^いる^いと^いと^いも^いに、^か完^か成^か度^かの^か高^かさ^かに^か驚^かか^かさ^かれ^かま^かし^かま^かした。

そ^ぜし^ぜて、^ぜ前^ぜ回^ぜの^ぜ取^ぜ材^ぜで^ぜ一^ぜつ^ぜの^ぜ課^ぜ題^ぜだ^ぜと^ぜお^ぜっ^ぜし^ぜゃ^ぜつ^ぜて^ぜい^ぜた^ぜ字^ぜ幕^ぜパ^ぜネ^ぜル^ぜの^ぜタイ^ぜミン^ぜグ^ぜが^ぜよ^ぜく^ぜ合^ぜつ^ぜて^ぜい^ぜて、^だ大^だ成^だ功^だを^だお^ださ^だめ^だま^だし^だた。さ^おら^おに、^お音^お楽^おや^お動^お物^おの^お鳴^おき^お声^おな^おど^おろ^おなど^おも^お入^おり、^より^よリ^よア^よル^よな^よ感^よ覚^よで^よ作^よ品^よに^よ入^より^よ込^よむ^よこ^よと^よが^よで^よき^よま^よし^よた。表^ひ現^ひ力^ひ豊^ひかな^ひ役^ひ者^ひさ^ひん^ひの^ひ表^ひ情^ひや^ひ動^ひき^ひを^ひ見^ひて^ひい^ひる^ひだ^ひけ^ひで、^い痛^いい^いほ^いど、^い感^い情^いが^い伝^いわ^いつ^いて^いき^いて、^し劇^しの^し終^し盤^しで^しは^し会^し場^しか^しら^しす^しす^しり^し泣^しき^しの^し声^しが^し聞^しこ^しえ、^じ実^じ際^じ私^じも^じ涙^じが^じ自^じ然^じと^じ溢^じれ^じて^じま^じし^じた。この^か感^か動^かは^か演^か劇^か部^かの^か方^か々^かの^か日^か々^かの^か練^か習^かと、^たた^たく^たさ^たん^たの^たアイ^たディ^たア^た無^たく^たし^たて^たは、^あ与^あえ^ある^あこ^あと^あは^あで^あき^あな^あい^あも^あの^あだ^あと、^あ改^あめ^あて^あ感^あじ^あま^あし^あた。

今^こ回^この^こ大^こ会^こで、^な奈^な良^な県^な立^なろ^なう^な学^な校^なの^な演^な劇^な部^なの^な皆^なさ^なん^なは^な見^な事^な県^な大^な会^な出^な場^なを^な手^なに^なさ^なれ^なま^なし^なた。主^や人^や公^やの^や役^やを^や演^やじ^やた^や太^や田^や明^や里^やさ^やん^やは、^つ次^つの^つ大^つ会^つに^つ向^つけ^つて^つさ^つら^つに^つ磨^つき^つを^つか^つけ^つて^つレ^つベ^つル^つア^つッ^つプ^つし^つて^つい^つき^つた^つい^つと^つ語^つつ^つて^つく^つれ^つま^つし^つた。ぜ^きひ、^き機^き会^きが^きあ^きれ^きば^き皆^きさ^きん^きも^き奈^き良^き県^き立^きろ^きう^き学^き校^きの^き皆^きさ^きん^きの^き力^き強^きい^き演^き劇^きを^き見^きて^きい^きた^きだ^きき^きた^きい^きと^き思^きい^きま^きす。

(高^た田^た商^だ業^{じやう}高^{ごう}校^{こう} S・O)

高^{こう}解^{かい}研^{けん} 研^{けん}修^{しゆう}交^{こう}流^{りゆう}会^{かい} 参^{さん}加^か体^{たい}験^{けん}記^き

一^{いち}月^{がつ}三^{さん}十^{じゅう}一^{いち}日^{にち} (日) に^か櫃^か原^{げん}市^しの^ふ婦^ふ人^{じん}・^せ青^{せい}少^{しょう}年^{ねん}会^{かい}館^{かん}で^こ今^{こと}年^し二^に回^{かい}目^めの^こ高^{こう}解^{かい}研^{けん}研^{けん}修^{しゆう}交^{こう}流^{りゆう}会^{かい}が^こあ^こり^こま^こし^こた。今^こ回^{かい}は^こ約^こ二^こ十^こ名^この^こ参^こ加^こが^こあ^こり、^わ私^わは^ぜ前^{ぜん}回^{かい}の^{きん}よ^{きん}う^{きん}な^{きん}緊^{きん}張^{ちやう}感^{かん}は^こな^こく、^よ余^よ裕^{ゆう}を^よも^よつ^よて^よ研^よ修^{ゆう}を^よす^よる^よこ^よと^よが^よで^よき^よま^よし^よた。

午^ご前^{ぜん}中^{ちゆう}の^{けん}研^{けん}修^{しゆう}会^{かい}で^{げん}は^だ現^だ在^{がく}、^だ大^だ学^{がく}生^{せい}で、^も高^も解^も研^もの^もOG^もで^もあ^もる^も森^{もり}田^た雪^{ゆき}さ^{ざい}ん^{ざい}が^{ざい}在^{ざい}に^にち^にが^にい^にこ^にく^にじ^にん^にと^にして^にの^に体^に験^にや^に思^にい^にを^に話^にし^にて^にい^にた^にだ^にき^にま^にし^にた。森^{もり}田^たさ^{ざい}ん^{ざい}は^{ざい}中^{ちゆう}国^{こく}残^{ざん}留^{りゆう}孤^こ児^にの^こ孫^{そん}と^こして^こ八^は歳^{さい}の^と時^{とき}に^か家^か族^{ぞく}と^らと^らも^らに^ら来^ら日^{にち}し、^に日^に本^{ほん}で^にの^に生^{せい}活^{かつ}で^と戸^と惑^{まど}つ^がた^がこ^なと、^に学^が校^{こう}で^には^に慣^にれ^にな^にい^にる^に日^に本^{ほん}語^ごや^に日^に本^{ほん}人^{じん}の^か考^かえ^か方^かに^{たい}大^{たい}変^{へん}苦^く勞^{らう}し^たこ^をと^を話^して^いた^だき^まし^た。また、^し就^し職^{じやく}を^ひ控^ひえ、^じ自^じ分^{ぶん}の^{しん}アイ^{しん}デ^{けん}ン^{けん}ティ^{かん}ティ^{かん}ー^を真^{しん}剣^{けん}に^{かん}考^{かん}え^るよ^うに^なつ^たこ^とな^ど





の悩みも打ち明けてくれました。

昼食はいつもと同じように、調理実習という形でした。四つの班に分かれて、水餃子と焼きそばを作るのを森田さんにも手伝っていただき、みんなでワイワイ言いながら楽しく食べるこ

とができました。

午後は各校解放研等の活動や意見交流会と、今年一年間の成果や反省等を報告しました。

また、そのあと第四回フリーダム編集会議があり、各校分担してあった原稿の調整・確認を行いました。

私は、この一年間、高解研の活動に参加して色々な人と出会い、色々なことを知ることができ、自分の視野も少し広がり、精神的にも成長したと思っています。

特に、鶴橋コリアンタウンの研修に出かけたことは楽しく、一番心の中に残っ

ています。四月当初はどうなるのか心配でしたが、今ではこの部活動に参加して

よかったと思っています。高解研は先生方が進めてくださいますが、自分たちが

主役で、考えたり、報告しなければならないので、研修会が終わると疲れますが、

「充実感のある活動をしたな」という気分になれます。

四月からは、三年生で、就職の準備などで忙しくなりそうですが、この研修

会には参加したいと思っています。みなさんも、ぜひ、この研修会に参加してく

ださい。
(大宇陀高校スタッフ)

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。

なお、文中の大宇陀高校ヒューライツクラブが実施した、鶴橋コリアンタウン研修会については、次号で紹介していただきます。お楽しみに！

『国境なき医師団』を知っていますか？

山辺高校スタッフがNGOの活動を紹介します

みなさんは、「国境なき医師団」とはいったいどんな活動をしている団体かを

知っていますか？「言葉だけは聞いたことがある」や「全く知らない」といった人もいるのではないのでしょうか。前号で私たちが山辺高校はユニセフについての記事を書かせていただきましたが、今号でもそれに関連して、「国境なき医師団」についての記事を書いてみたいと思います。

まず、「国境なき医師団」とはなんなのでしょう。それは、1971年にフランスの医師達が集まって生まれた非政府組織（NGO）のことであり、独立・中立・公平をつらぬいています。簡単にいうと、「本当に助けを必要とする人であれば、誰でも差別せず援助する団体」ということになります。

では、どんなところで活動しているのでしょうか。それは紛争が起こっているところや、自然災害の発生したところ、医療に手の届かない人々のいるところなどです。そうしたところにいる人たちは単に"物資が不足している"や"治療の手が追いつかない"といった問題だけでなく、"心に大きな傷を負っている"といったこともあります。

「国境なき医師団」は、このような状況下におかれている人たちのために、診療・外科手術・栄養治療・予防接種・心理ケアなど幅広く活動しています。このうちの心理ケアというのは、目の前で家族を失うなど辛い体験をした子どもは精神的ショックのために小さな物音におびえたり、眠れなくなるなど、心と体の健康を崩すことがあるから行っています。こういった活動のおかげで助かった人はたくさんいます。

みなさんにも、できることはたくさんあります。少しずつ始めてみませんか。

(S・O)

●「私たちが「国境なき医師団」と一緒にできること」クイズ●

～募金でどこまで人を救えるのでしょうか？～

1. 100円で…栄養失調の子どもに与える栄養治療食（プランピー・ナッツ）を、何個買うことができますか？

< A : 1個 B : 2個 C : 3個 >

*プランピー・ナッツは1パックで500キロカロリーあります。

2. 1000円で…髄膜炎、はしか、ポリオの予防接種を、何人に行うことができますか？

< A : 3人分 B : 6人分 C : 10人分 >

3. 1500円で…風邪やマラリアなど病気の患者さん何人を、1ヶ月治療することができのでしょうか？

< A : 30人分 B : 60人分 C : 70人分 >

4. 3000円で…何人の子どもにはしかの予防接種ができますか？

< A : 60人分 B : 80人分 C : 170人分 >

*世界では、はしかで年間2万人の幼い命が失われています。

5. 5000円で…何人のマラリア感染の検査が行えるのでしょうか？

< A : 50人分 B : 100人分 C : 150人分 >

*マラリアは毎年100万人以上が死に至る病です。

○国境なき医師団 (MSF) の活動は、世界中の人々からの寄付で支えられています。わずかな金額でも、人の命を救うことができます。募金をしてみよと思う人、もっと調べてみたいと思う人は、国境なき医師団日本のウェブサイト (www.msf.or.jp) をご覧ください。 (S・K)

※クイズの答え 1 = C (3個) 2 = C (10人分) 3 = B (60人分)
4 = C (170人) 5 = B (100人)

◇コラム◇

疑問に思うこと

S・O

私は、最近疑問に思うことがあります。それは、どうして生まれた国や地域によって貧富の差が生まれてしまうのか、ということです。例えば、今の日本のような国に生まれても、戦争にかり出されることはないのに、外国では幼い子ども、それも私たちよりも小さい子どもたちが銃を持って戦いに行かなくてはならないような所もあります。どうしてこんなにも違うのでしょうか。いつからこうなってしまったのでしょうか。この現象にも何か原因があるはずですが、その貧富の差を減らしていくためには、なくしていくためには、私たちにできることは何なのでしょう。

皆さんも、一度考えてみませんか？



西光万吉とその思想 ~ 添上高校スタッフ発 ~

みなさんは西光万吉という人物を知っていますか。西光万吉は、大正・昭和期の部落解放・社会運動家で、全国水平社設立の中心人物、そして水平社旗の意匠の考案者および水平社宣言の起草者として知られています。

西光万吉は水平社発祥の地である御所市柏原の西光寺に生まれ、被差別部落出身ということで様々な差別を受けました。青年時代には、学校の教師や級友などからの出自に対する差別を受け、その行為から逃れるため、何回も転入学を繰り返していたと言われています。また、幼少期から絵の才能に恵まれ、離郷し画家になろうとするも、部落民への差別の恐怖から、その夢を一時断念するという、出自をめぐる悩みを体験しています。

けれど、西光万吉はこうした自身の差別体験から、自分の抱いていた逃避意識が間違いだと気づき、この頃から解放運動へ力を入れていきました。同郷で親友であった阪本清一郎、駒井喜作らとともに青年運動・社会改造運動に没入していき、様々な思想に触発され全国水平社創設へとつながったのです。

ところで、西光万吉と言えば部落解放運動における水平社宣言が有名ですが、締めの一文である「人の世に熱あれ、人間に光あれ」の人間という言葉は、「じんかん」とも読めると知っていますか？ 普通に読めば「にんげん」ですが、西光万吉は「じんかん」つまり、人と人との間という意味も同時に込めて、この文を作ったそうです。幼いころから幾多の差別を受け、様々なつらく苦しい思い、それこそ辛酸をなめるような体験をしてきた西光万吉であったからこそ、世の中に熱が溢れ、人間は勿論のこと、人と人との間に光という名の希望が満ち溢れていくことを願ったのかもしれない。



西光の墓と「人の世に熱あれ…」の石碑

☆次号予告☆ みなさんは、将来の夢はありますか？ 帝塚山高校スタッフが、仕事のやりがいや自己実現について、職業人にインタビューしてきました。お楽しみに！

こうこうせい じんけんこうほう し だい ごう ねん にちほつこう
高校生の人権広報誌 "Freedom"第3号 (2010年3月11日発行)

へんしゅう
編集 "Freedom"編集スタッフ

な ら けんこうとうがつかう きょういくけんきゅうかい
発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 なら しだいあんじ なら かいほう ない
〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1 奈良県解放センター内

TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568

E-mail kodokyo @ kn. ne. jp

- ※ こんかい だいじ おおう だこうこう ずあん たかだ
今回の"Freedom"題字は大宇陀高校スタッフ、"イヌサフラン"の図案は高田
しょうぎょう よしい ふくだ
商業高校の吉井さん・福田さんでした。
- ※ いけん かんそう とうこう かくこう たんとう せんせい じょうき
ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記まで
よ
お寄せください。
- ※ ほんし いんかい じぎょういたく
本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託をうけています。